

四月から自転車で通勤しはじめた。近頃のコンビニに行くのでさえ自動車を使っていた私にとつて、“チャリ通”は、学生時代以来の経験である。当然、ペダルをこぐ私の足は重くて、景色の進みも、日々ゆつくりとなつていった。

そんな時、

「おはようさん。今日もやりゆうかねえ・・・。」

ふと、私の耳に飛び込んできた声。それは、近所の人同士の他愛もないあいさつだった。けれど、それは、自動車に乗っていては決して聞けない声だった。

頬にあたる爽やかな風。アスファルトにさす光。土の匂い。鳥のさえずり。今までの私には気づけなかった日常が、そこらじゅうに溢れていた。ペダルの重さはどう気にならなくなっていた。

先日目にした新聞記事によれば、世界人口の三分の一が、天の川を見られないという。夜間照明など人工の光が過剰にあふれる「光害」のせいらしい。日本では、実に人口の七割が、天の川が見えない場所に住んでいるそうだ。

幸いにも、私の住む街はきれいな天の川が見える（ハズだ）。けれど、最近、夜空を見上げたのはいつのことだったろう。少し不安

「私の街」

になり、日暮れを待つて、夜空を眺めた。さすがに満天の星ではないけれど、人の住む灯りの上に、まだきれいな星空が広がっていた。心が落ち着いた。

風や音や、においを感じたり、星空を見て思いをはせたり・・・。そんな暮らしのできるこの街は、私には「ちようどいい街」だなあと思う。誰にとつても、ありふれた日常の中にこそ幸せを感じられる、そんな世の中になるといいなあ。

あなたの街は、「ちようどいい」ですか。



*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願ひ、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569